

第64回
全国
保育問題
研究集会

石川集会
実行委員会
ニュース



No.
4

2025年2月発行

今年の冬は暖冬だと昨年ニュースで聞いた気がします。ただ、海水温の状況から雪は例年より多いとも…。1月の中旬は寒さも緩み、「あ～、長期予報どおり」と思っていたのですが、とんでもなかったですね。猛烈な寒波が日本列島を襲い、寒いです。

広報担当は愛知です。愛知は「伊吹おろし」という伊吹山からの寒風が吹き下ろし寒さが厳しくなるのですが、降雪被害は多くはありません。しかし、そんな愛知でも今年はずっとより、多くの雪が降り、高速道路や、国道の通行止めもおきました。雪の不便さを感じた2月でした。しかし、愛知の子どもにとって雪はとってもうれしいものです。今回の降雪で園庭に、そして、子どものいる家の隅に小さな雪だるまがぽつんといます。そんな雪だるまを見ると不便だなという大人の思いも吹き飛びます。

ニュースで見る北海道や日本海側の雪の映像は雪の少ない地域に住んでいる私たちには驚きしかなく、雪と暮らす大変さは私たちの想像を絶するものだろうと感じています。圧倒的な自然の力と共生している皆さん、無理をなさらずに頑張ってください。

石川集会の提案数は66本です。提案を予定されている方は、職場で議論したり、各地保問研で意見交換をされたりと提案のブラッシュアップをされたことかと思います。そして、2月10日の締め切りに間に合わせるために夜なべをされた方もいるのではないのでしょうか。皆さんの実践を6月の集会で聞けることが本当に楽しみです。

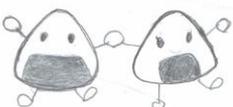
さて、今回のニュースでは初めて集會に提案される広島保問研の柿原さんが提案に向けての思いを寄稿してくださいました。

私は就職して3年目ですが、全国保育問題研究集会には初めて参加します。そんな中、乳幼児期の平和教育分科会で提案をするので、この1年間の保育を改めて振り返ることができました。とはいっても、1年間平和にすごく重きを置いて保育をしていた訳ではないので日常の中でどのように乳児期の平和を大切にしているかを考えました。

このクラスは0歳児期から一緒に生活している難聴の加配児がいるので、子ども同士で意思疎通が難しいこともあります。加配児を含めてみんなが、それぞれの違いを認めつつ過ごすことができるような関わりを大切にしていたということに改めて気づくことができました。8月6日に向けての平和の取り組みでは少しずついろんなことが分かり始めた、この2歳児の子どもたちにどこまで伝えるか悩みながら今年は、飼育していたアリくん絡めて友だちの好きなものを子どもたちに伝えたり、日本とは違う国では今も戦争をしていることなどを伝えてみたりもしました。全国集會では、他の地域、保育園からも提案を聞いて全国の皆さんと一緒に、じっくり平和について学びたいと考えています。石川での全国保育問題研究集会を楽しみにしています。



広島保問研 口田なかよし保育園 柿原加菜



「今年の特別講座の見どころは!？」



来たる6月の石川集会に向けて、特別講座の見どころをご紹介します! 今年の特別講座も対面開催と動画配信で合計9講座行いますが、どの内容も魅力的なものとなっております! それを皆さんに少しでもお伝えするべく、ここでは、能登地域、震災学習関係4講座に絞ってご紹介します。対面開催のものにつきましては定員がございますので、お早めに申し込み下さい。

対面開催 定員250名 1. のと未来トークから考える子どもたちの未来

講師 谷内江昭宏さん 金沢大学理事
能登半島山里海未来創造センター長

能登半島地震を受けて、「これからの能登をどうしていくか、そのまちのみんなで考える」ことを目的に、被災6市町および金沢市で行われた



「のど未来トーク」という対話の場。それをともに、子どもも災害弱者であるというところに注目しながら、その後追い討ちをかけるように受けた豪雨災害も踏まえて、現地の実情や復興の在り方をお聞きしたいと思います。

また、今講座は「のど未来トーク」の拡大版というイメージで、参加者一人ひとりが、各地域に住む大人として、保育者として、復興をどのように考えるか、みんなで対話できる場になればとも考えています。皆さんの声を石川で聞けることをお待ちしております。

動画配信 定員50名 3. 能登に伝わる「キリコ祭り」を知る

講師 大森重宜さん 金沢星稜大学
人間科学部教授

皆さんは「キリコ祭り」をご存じでしょうか? 「キリコ」というのは、巨大な燈籠のことで、威勢

のいい掛け声とともにまちを練り歩き乱舞するお祭りです。夏になるとこの「キリコ祭り」がなんと能登半島の200もの地域で開催されるそうです。なぜここまで能登半島で発展したのか? 江戸時代から現代までどのようにして文化が継承されてきたのか? 大森重宜さんにお話いただきます!

能登の地域や文化に触れ、子どもたちと地域や文化のつながりを考える機会にしましょう!



動画配信 定員50名 2. 東日本大震災から考える《犠牲》の受容

講師 石井光太さん ルポライター

「復興とは家屋や道路や防波堤を修復して済む話ではない。人間がそこで起きた悲劇を受け入れ、それを一生涯十字架のように背負って生きていく決意を固めてはじめて進むものなのだ。」(ルポ『遺体 震災、津波の果てに』新潮社より)



東日本大震災発生から3日後の3月14日には被災地に入り、その日から3か月のうち、約2ヶ月半を被災地で過ごし、週刊誌や月刊誌に現地ルポを送った石井さん。被災地の遺体安置所を自ら見つけ、その関係者50名以上から聞き取った証言を元に、そこでの約3週間の出来事を軸にまとめられたルポを、今改めて語ってもらいます。

対面開催 定員50名 4. 輪島塗の箸づくり体験

講師 輪島工房長屋
今回、体験の講師をお願いして

いる輪島工房長屋さんは、能登地震後の2024年6月には一部営業を再開

されました。企画係2名も現地に行き、箸づくりの沈金体験をさせていただきました! 漆塗りがされている箸に削りを入れて模様をつけていくのですが、力加減で削り具合が変わるので熱中してしまいました。輪島塗はいくつもの工程の末にあの美しい器になること、その緻密な作業の凄さを、体験を通して感じる事ができました。自分の手で好きな柄を入れることができます。是非、皆さんも体験してください!!



その他の特別講座はこのような形となっております。

- ・『保育がおもしろくなるまでに』 司会 石神建太郎さん 登壇者 古賀柊葉さん、杉本明日香さん
- ・『戦後80年を迎える今、保育の歴史を学ぶ』 講師 松本園子さん
- ・『“幼稚園の今”から子どもの育ちを考える』 講師 木都老克彦さん、高橋詩子さん、渡邊保博さん
- ・『仲間関係で育ち合う乳児保育』 講師 亀谷和史さん、野村朋さん
- ・『「なんでそなん!？」から子どもへのまなざしを豊かにする』 講師 高松智行さん

集会案内も3月頭には各地域へ発送されますので、詳しくはそちらをご覧ください。

